

国土交通省

本省

～ この国をつなげる。未来をカタチにする。～

【一般職事務系】 先輩職員の声



国土交通省

白岩係員	(不動産・建設経済局 土地政策課)	1
上林係長	(都市局 都市政策課)	2
宇賀神係員	(道路局 総務課)	4
大賀係員	(水管理・国土保全局 総務課)	5
伊倉係長	(住宅局 参事官 (マンション・賃貸住宅担当))	7
平川係員	(デジタル庁 出向中)	9
蔵田係員	(鉄道局 鉄道事業課)	11
西脇係員	(自動車局 自動車情報課)	13
星野係員	(海事局 船員政策課)	14
北野係員	(観光庁 観光戦略課)	15

白岩係員

Q. 志望動機を教えてください。

震災の経験から、防災業務やインフラ整備といった社会資本基盤を支える国土交通省の政策に興味を持ち、志望しました。

Q. 現在所属している課の業務内容、ご自身が担当している仕事内容を教えてください。

私は現在、不動産・建設経済局土地政策課公共用地室に所属しています。渋滞緩和のために道路を整備したり、災害を防ぐために河川に堤防やダムを築いたりなどといった公共事業を実施する際には、土地が必要となります。私は、土地を取得した後に公共事業を円滑に行い、損失の適正な補償を目的としている補償コンサルタント業に関わる業務に携わっております。国交省 HP の更新や用地ジャーナル紙へ掲載ためのデータ収集なども行っています。また、地方整備局と会議や現場視察等で関わる機会が多いので、用地経験の豊富な職員方と連携して仕事をする場面もたくさんあり、日々現場を学ぶことができる職場です。



Q. 現在担当している仕事に限らず、今までで最も印象に残っている仕事を教えてください。

荒川河川下流事務所での現場視察で、高規格堤防事業・かさ上げた堤防より高い位置に橋を架けることで、洪水からの被害を防ぐ目的の京成本線荒川橋梁架替事業について、実際に乗船してみたことが印象に残っています。

Q. ワークライフバランスを保つために心がけていることを教えてください。

食べるのが好きなので、休日は美味しいものを食べに行ったり、家でご飯を作ったりすることが多いです。

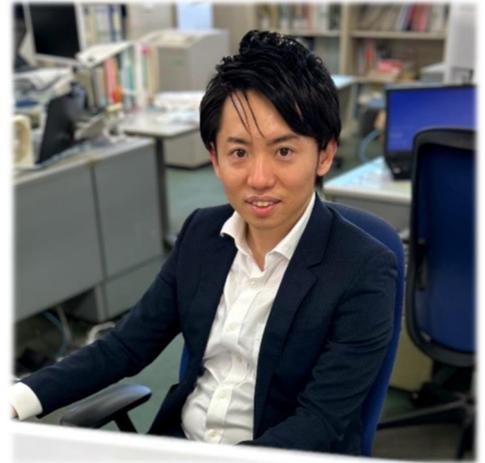
Q. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

試験は、筆記試験・人事院面接・官庁訪問などとても長い道のりです。私は大学時代教育学部で、学生時代に取り組んでいたことと国土交通省の施策とはあまり結びつかないと思いますが、官庁訪問では、職員の方々が親身に聞いてくださったおかげで、国交省を志望した理由・国交省に入ってどんな仕事をしたいのかという思いを素直に伝えることができました。特に、官庁訪問は緊張や不安もあるかと思いますが、諦めない気持ちがあれば、なんとかなります。入省後、皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

上林係長

Q. 志望動機を教えてください。

国土交通省を志望した理由は都市計画などスケールの大きな仕事に携わってみたいからです。実際に1年目に都市局都市計画課に配属されたことに驚きもありましたが、自分がやりたい仕事があるということが国土交通省を選んだ理由です。



Q. 現在所属している課の業務内容、ご自身が担当している仕事内容を教えてください。

現在は都市局都市政策課で仕事をしています。都市政策課は PLATEAU をはじめとするまちづくり分野のデジタル化の推進、テレワークの普及促進、都市におけるカーボンニュートラルなどの環境政策の推進などの都市政策を企画立案し、他省庁や地方公共団体との連携や調整などを行っています。

私は総務係として課の窓口業務を担当しており、政策の推進に必要な予算要求、契約事務などのとりまとめや職員の勤務時間管理や手当などの庶務業務を担当しています。

まちづくり分野のデジタル化は地方公共団体に対する補助制度が令和4年度に創設され、3D都市モデルの整備が急速に進められています。また、整備された3D都市モデルをどのように活用していくのかといったユースケース開発も行っていますので興味のある方は国交省のHPをご覧ください。

(<https://www.mlit.go.jp/plateau/>)



Q. 現在担当している仕事に限らず、今までで最も印象に残っている仕事を教えてください。

本邦企業の都市開発の海外展開を支援する都市局国際室の仕事が印象に残っています。私は学生時代から英語に苦手意識があり異動を命じられた際は不安しかありませんでした。しかし、配属直後にマネジメントを行う国際室長から「英語が必要な業務は周りがサポートするから、経験のある予算や契約業務で周りをサポートしてほしい。」との言葉をかけていただき、できないことは素直に上司や周りの同僚を頼り、自分ができる業務を積極的に取り組むことにしました。その後の2年間は国際業務に携わりインドネシア、

ベトナム、タイ、フランスなど外国に出張する機会もいただきました。入省する時には自分が外国に行き、相手国政府との打合せの場にいることなど想像もしていませんでしたが、自分にはできないと思っていたことを経験できたことで成長を感じる機会になりました。



Q.ワークライフバランスを保つために心がけていることを教えてください。

私には5歳の長男と2歳の長女がいます。長女の誕生を機に育児休業を取得しました。休業制度は男性女性問わず「制度はあるけど実際に取れないもの」ということはなくなり、希望をすれば誰でも取得できる環境になったと思います。またテレワークやフレックスなどの働き方に関する制度も同じです。

一方で、仕事に関しては忙しい時期もあれば、突発的な対応を求められることもあります。育児にしても仕事にしても1人ではできないので、上司や同僚、そして妻や両親の協力の上で、休暇やテレワーク等の制度活用しつつ、仕事と家庭の状況に応じて柔軟に対応することを心がけています。

Q.国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

自分が働きたいと思える環境で仕事をするのは大切なことだと思います。やりがいを持つことにもつながりますし、時にはつらく大変な仕事でも自分が選んだ仕事であれば乗り越える力にもなり、それが成長につながると思います。



宇賀神係員

Q. 志望動機を教えてください。

学生時代の留学で訪れた東南アジアで道路や高層ビルが次々と建設されており、地域の活気に圧倒されたことをきっかけにインフラの整備に興味を持ちました。私たちの日々の暮らしを支える重要な役割を担い、国全体のために広い視野をもって働けることに魅力を感じました。



Q. 現在所属している課の業務内容、ご自身が担当している仕事内容を教えてください。

現在、私は道路分野の長である道路局長の秘書業務を行っています。省内だけではなく地方自治体や国会議員事務所との調整業務も多く、省内外問わず多くの方と一緒に仕事をしています。

また、大雨や大雪、地震などの災害時には、災害に関する会議や官邸へ説明に伺うスケジュールが入り、緊急の調整対応が求められることがあります。緊張感をもって臨機応変に対応する力やスピード感が求められますが、国を動かしている省幹部の仕事の間近で見られるという貴重な経験ができることにやりがいを感じています。

Q. 現在担当している仕事に限らず、今までで最も印象に残っている仕事を教えてください。

入省1年目の道路局路政課で経験した鉄軌道会社への保安監査が印象に残っています。鉄道局や地方運輸局と一緒に線路を歩いて検査したり、普段図面でみていた路面電車の延伸計画の現場を視察できるなど、大変貴重な経験でした。本省で働きながらも出張で現場を見られる機会があることは、全国に現場がある国土交通省ならではの思い出です。

また、鉄軌道会社あてに道路使用の大臣許認可を通知した翌日の地方新聞に、許認可に関する記事が掲載された時には大きなやりがいを感じました。

Q. ワークライフバランスを保つために心がけていることを教えてください。

仕事の日には庁舎内で1日を過ごしているので、仕事帰りは近くの駅までお散歩をしています。霞が関は国会議事堂や日比谷公園、銀座、丸の内などの徒歩圏内にあるので、おいしいご飯屋さんやおしゃれなお店など、新しい発見があって楽しいです^^

Q. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

国土交通省は、ライフイベントとキャリアを両立できる制度や環境が整っており、男女問わず多くの職員が活躍しています。ぜひ説明会や官庁訪問で雰囲気を感じていただき、国交省に興味を持っていただくと嬉しいです！

大賀係員

Q. 志望動機を教えてください。

令和元年に地元である千葉県を襲った台風15号・19号により友人の家の屋根が吹き飛んでしまったことや長期間にわたる停電に苦しむ様子を見てきた経験から防災に関わりたいと考え始めました。近年、自然災害が激甚化・頻発化し全国各地で甚大な被害が発生していることから、全国的な災害対策に関わることができる国土交通省を志望しました。



Q. 現在所属している課の業務内容、ご自身が担当している仕事内容を教えてください。

私が所属している水管理・国土保全局総務課では、治水海岸、下水道、都市水事業等の施策、予算のとりまとめや局内の総合調整を行っております。私は局内予算・執行のとりまとめに関する業務に従事しており、各事業の予算に誤りがないか入念に確認を行い、正確にとりまとめ、各事業の予算を作成することで所掌している事業の推進に寄与しています。河川の整備やダム建設などといった工事には予算が必要不可欠であり、ミスが許されないプレッシャーを感じることもありますが、局内の様々な事業に携わることができる非常にやりがいのある業務です。



Q.現在担当している仕事に限らず、今までで最も印象に残っている仕事を教えてください。

1年目にダム予算を担当していたのですが、どうしてもデスクワークがほとんどで、自分が担当している予算がどのように社会の役に立っているかの実感を得ることが難しい時期がありました。しかし実際に建設中のダムに出張で訪れる機会があり、自分の携わったダムが形になりつつあるのを見たとき、自分の業務が社会に還元されていることを実感し、やりがいを感じることができました。現在はダム以外の予算も担当しておりますが、この経験からただ予算作業するだけではなく、どのような事業をしているのか調べることでイメージを深め、社会とのつながりを感じるきっかけになったことから印象に残っています。

Q.ワークライフバランスを保つために心がけていることを教えてください。

休日や仕事が終わった後は、ゲームをすることでリフレッシュをしています。そのほかに、ゲーム以外の趣味であるアニメ鑑賞、野球観戦、ダムカード収集をして休日を過ごしています。

また、昼食を国土交通省内ではなく、外出することで一度切り替えを行っています。

Q.国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

国土交通省は所掌している業務が多岐にわたるため、様々な業務に触れる機会があります。また、予算規模も大きいためスケールの大きい業務に携わることができます。国土交通省で一緒に働ける日を心待ちにしております！

伊倉係長

Q. 志望動機を教えてください。

私は国土交通省に入省する前は住宅メーカーで営業職をしていましたが、仕事の経験を積む中で、大きなやりがいのある仕事や世の中の役に立つ仕事がしたいという思いを抱くようになり、公務員への転職を考えるようになりました。特に国土交通省が関わる業務は公共施設など目に見える成果につながる点で他の省庁にはない魅力を感じました。



Q. 現在所属している課の業務内容、ご自身が担当している仕事内容を教えてください。

住宅局で民間賃貸住宅のトラブル防止や課題解決等に関する業務を担当しています。特に退去時の原状回復がトラブルになりやすく、国土交通省では一般的な基準をガイドラインとして示し、トラブルの未然防止や円滑な解決が図られるよう取り組んでいます。また、孤独死のリスクが高い単身高齢者やコミュニケーションがとりづらい外国人の方々など、賃貸住宅を借りることが困難な方が賃貸住宅を借りやすくなるよう、大家さんや不動産事業者向けの実務マニュアル等を作成・周知するといった取組を進めています。事業者さんから、国土交通省の資料を参考にしているという声をいただくことも多く、やりがいを感じています。



Q.現在担当している仕事に限らず、今までで最も印象に残っている仕事を教えてください。

平成 28 年の熊本地震の際に、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）に参加し、現地で応急危険度判定という被災建築物の倒壊等による二次災害を防止するための被災状況調査のサポートを行いました。建築職の職員の方々と一緒に被災地を回り、連絡調整や報告のとりまとめといった事務を行うとともに調査のお手伝いもさせていただきました。まだ市役所の庁舎が避難者で埋め尽くされている状況の中、被災地の状況を目の当たりにし、住民の方々と直接話しをすることで、災害の恐ろしさと行政が果たす役割の重要性を肌で感じる事ができた貴重な経験となりました。

Q.ワークライフバランスを保つために心がけていることを教えてください。

仕事でマイナス思考になった時には、サウナに通って何も考えない時間を作っています。一度頭の中を空っぽにすると、前向きな事を考える余裕が生まれると思いますので、みなさんも気持ちを切り替えるきっかけとなるスイッチを見つけてみてください。

Q.国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

国土交通省の仕事は人々の「暮らし」の土台を支える大きな役割を担っていますので、責任を感じる場面も多くありますが、その分大きなやりがいを感じることができると思います。みなさんと一緒に働ける日が来ることを楽しみにしています。

平川係員

Q.現在所属している課の業務内容、ご自身が担当している仕事内容を教えてください。

令和5年4月からデジタル庁に出向しており、省庁業務サービスグループで人事・給与関係業務情報システム(以下人給システム)を担当しています。人給システムとは、各府省の人事異動に関する業務や給与計算に関する業務などの処理を行うシステムで、一般の職員も給与明細の確認や諸手当の申請を行う際に使用します。その中で私は、府省運用支援や利用者用マニュアル作成、インシデント管理、各種会議資料作成等を行っています。どのようにすれば利用者が使いやすいか、そのために制度をどのようにシステムに落としこんでいくかを常に意識するよう心がけています。デジタル庁は、民間企業出身者や他省庁からの出向者が多いため毎日様々な刺激や発見があります。現在システム専門用語など猛勉強中です！



Q.現在担当している仕事に限らず、今までで最も印象に残っている仕事を教えてください。

初めて配属された国土交通省住宅局で、制度見直しの会議運営に携わったことが印象に残っています。大学教授や弁護士等の方々と短期間での日程調整を行うほか、HPの更新作業、開催案内、会議当日のロジなどを行いました。当時コロナ禍になったばかりで、省内にノウハウがない中WEB開催となったため、参加する委員の方々への操作資料の作成や事前の疎通テストを何度も行うなど、万全の状態になるよう努めました。無事会議が滞りなく終了し、実際に改正後の制度が施行されているのを見て大きなやりがいを感じました。自分独りで抱え込むのではなく、まわりの人を巻き込んで仕事をしていくことの大切さを学ぶことができた経験です。



Q.ワークライフバランスを保つために心がけていることを教えてください。

デスクワークが多いため、お昼休憩はなるべく外に出るようにしています。近くの公園でランチしたり散歩したりするとリフレッシュになります！また、高校時代から続けている食後の睡眠も、頭がすっきりして午後の仕事がかどるためルーティンとして心がけています！

Q.国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

私は途中で国土交通省に入省しました。最初は不安もありましたが、様々な方々に支えていただき、今回他省庁へ出向する機会をいただきました。国土交通省は所掌業務が幅広いため、その分様々なキャリアを描くことができると思います。皆様と一緒に仕事ができる日を心待ちにしています！

藏田係員

Q. 志望動機を教えてください。

大学では法律・政治分野を専攻していたため、同分野で得た知識を活かせる仕事に就きたいと考えていました。同時に、移動手段としての公共交通インフラをいかに利用者に使いやすくできるかについて、様々な場所に旅行する中で関心を持つようになり、国の施策に関わりたいと考え、国土交通省を志望しました。



Q. 現在所属している課の業務内容、ご自身が担当している仕事内容を教えてください。

皆さんは鉄道が旅客輸送だけでなく、貨物輸送も担っていることをご存知でしょうか。貨物鉄道は全国ネットワークを有する大量輸送手段であり、労働生産性や環境性能に優れた輸送機関として注目されています。

私が所属する鉄道局貨物鉄道政策室では、そんな貨物鉄道に関する政策についての企画・立案や貨物鉄道事業者の監督等を行っています。その中でも私は、法律に基づく行政手続きや他局課室との連絡調整等を行う窓口業務に携わっています。また現在は、物流の2024問題への対応や2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、貨物鉄道はより一層期待されているため、国会議員をはじめ多くの国民から質問や問合せが寄せられることもあり、日々緊張感をもって対応しています。

Q. 現在担当している仕事に限らず、今までで最も印象に残っている仕事を教えてください。

鉄道物流の在り方について議論するために開催された有識者会議の事務局をしていた時は特に忙しく、印象に残っています。ロジの作成や資料の確認、普段では接することのない事業者とのやり取りなど慣れない業務もありましたが、多くの方の協力もあったおかげで有識者会議のとりまとめに漕ぎつけた際は大きな自信になりました。

また、それまでは日々の業務をこなすのに精一杯だったが、街中で貨物列車を見かけると思わず立ち止まるようになり、貨物鉄道は国民生活に欠かせない「物流」を支えているのだと実感し、やりがいを感じるようになりました。(通貨する列車の車両やコンテナの数を数えている自分は職業病かもしれませんが... (笑))

Q.ワークライフバランスを保つために心がけていることを教えてください。

デスクワークが多いため、休日は学生時代から続けているテニスをプレーして凝り固まった身体をほぐしてあげます。ほかにもサウナや飲みなどに出かけて充実した休日を通すよう心がけています。

Q.国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

国土交通省での仕事は、普段生活している中で身近に感じる分野（鉄道・自動車・土地・道路など）が多く、世間の関心が高い施策に携わることができます。公務員試験は、筆記・面接・官庁訪問と試練が立ちだかっていると思いますが、たまに息抜きをしつつ頑張ってください！皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています！



西脇係員

Q. 志望動機を教えてください。

私が就職活動を始めた時期は新型コロナウイルスが流行し始めた頃でした。先輩や同級生が卒業旅行で海外に行けないと嘆いているのを見て、自国の良さを知ってもらいたいという気持ちから観光業に興味を持ちました。当時インバウンド需要が注目されていましたが、外国人だけでなく日本人が再び訪れたいと思う国づくりをしたいと考え、国土交通省を志望しました。



Q. 現在所属している課の業務内容、ご自身が担当している仕事内容を教えてください。

現在、国土交通省自動車局自動車情報課に所属しており、自動車の登録関係の仕事をしています。全国に運輸支局や自動車検査登録事務所があり、原則として自動車は安全面・防犯面等の観点から登録を行わなければ運行ができないため、全国にある運輸支局や自動車検査登録事務所に多くの自動車ユーザーの方々が手続きに訪れます。本省では直接自動車ユーザーの方々と接する機会はほとんどありませんが、運輸局を通して現場の状況を把握し統括しなければならないため、自身の業務に責任を持ち日々業務を行っています。登録業務は奥が深く、勉強することが多いですが、頻繁に利用する自動車について知識が増えていくことを嬉しく思っています。

Q. 現在担当している仕事に限らず、今までで最も印象に残っている仕事を教えてください。

自動車情報課に配属される前は、保障制度参事官室に所属し自賠責保険の広報関係の仕事をしていました。昨今の電動キックボードの普及を踏まえ、自賠責保険への加入の必要性を訴えるべく、ポスターの制作やインターネット広告の掲載などを行いました。訴求すべきターゲット層に合わせたデザインを考えて作成したポスター等がインターネット上や駅、家電量販店等に掲載され、一人でも多くの人に見てもらえたことはとても印象に残っています。上司や先輩、業者の方々とアイデアを出し合っ、一つのものを作り上げることができ、達成感を覚えました。

Q. ワークライフバランスを保つために心がけていることを教えてください。

寝ることで頭をリセットするようにしているため、睡眠時間はきちんと確保しています。またディズニーが好きなので、週末に遊びに行くことでリフレッシュをしています。

Q. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

国土交通省の業務はインフラや運輸など多岐にわたりますが、その分大きなやりがいを感じることができると思っていますので、ぜひ国土交通省に興味を持っていただけたら嬉しいです。一緒に仕事ができる日をお待ちしております。





星野係員

Q. 志望動機を教えてください。

もともと、制度改正や行政手続きに携わることができ、自分の仕事が社会及び国民生活に直接的に影響を与えられるという部分に魅力を感じ、国家公務員として国民生活を支えたいと考えておりました。

その中でも、国土交通省では国家の基盤である建設系や運輸系について携わることができる点、海事といったような日本経済を支える分野の仕事に携わることができる点、大きな規模の事業に携わることができる点から国土交通省に入省させて頂きました。

Q. 現在所属している課の業務内容、ご自身が担当している仕事内容を教えてください。

私が現在所属している海事局船員政策課では船員（船乗りさん）の労働基準や職業紹介等に関する手続きを所管しており、私は現在、デジタル班として、それらの手続きについて、令和7年度までにオンライン化を実現するためのシステム開発の検討を進めています。

手続きのオンライン化に当たっては、現在紙媒体を中心に行われている手続きを電子化することとしており、これを実現することで船員や船舶事業者の方々の負担を大幅に削減することを可能にすることができます。

このシステムの実現に向けて、行政手続きを直接扱う地方運輸局の方々の意見を伺い、システム設計に反映させるとともに、システム開発のための契約がつつがなく遂行できるようにするための業務をしています。

Q. 現在担当している仕事に限らず、今までで最も印象に残っている仕事を教えてください。

私は現在取り組んでいるオンライン化に向けての業務に非常にやりがいを感じており、刺激が多い毎日を過ごしております。

一番やりがいを感じる部分は窓口での手続きのオンライン化という、国民生活に密接にかかわる大きなプロジェクトに携わることが出来ているところです。これを成功させるために、日々の業務に取り組んでいく中で、少しでも多くの事業者や地方運輸局の方と打ち合わせを行い、その中で出てきた課題や意見を上司等と納得できるまで議論しうまく調整し、できるだけ反映していくことで、限られた時間や予算でより良い改良案を作成できるように取り組んでおります。成果として出るのはこれからですが、非常に楽しみです。

Q. ワークライフバランスを保つために心がけていることを教えてください。

現在、登山にハマっており、休日にはよく山を登っています。日々の業務ではデスクワークがメインになるため、自然環境に触れることや体をしっかりと動かすことで心と体をリフレッシュしています。

Q. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

現在、私は、海事局で優しい先輩職員のもとで、充実した日々を送っています！

国土交通省は、私が所属している海事局をはじめ、様々な分野の事務を所管しており、どの分野も国民の生活を支える重要な役割を担っています。人々の生活に貢献できるやりがいのある仕事だと思いますので、是非、皆さんにも興味を持っていただけたらうれしいです！

北野係員

Q. 志望動機を教えてください。

前職で観光業務に携わっていた経験から、より包括的に観光分野に携わりたいと思い、国土交通省を志望しました。もともと旅行は好きだったのですが、観光を通じて日本全国の地域活性化に貢献したい、コロナで落ち込んだ日本経済に元気を取り戻したいという思いから入省を決めました。



Q. 現在所属している課の業務内容、ご自身が担当している仕事内容を教えてください。

現在私は観光庁観光戦略課に所属しています。観光戦略課は、主に観光に関する基本的な政策の企画、立案を行っており、その中でも私は免税制度業務、観光白書の執筆業務、有識者との意見交換業務を担当しています。特に、免税制度業務は、制度の利用拡大や免税店数増加に向けて、より使いやすい制度となるよう関係省庁や民間事業者と連携して制度の運用を行っています。免税制度の利用促進や旅行者の利便性向上は、訪日外国人旅行消費額の増加につながるため、観光を通じて経済成長や地域活性化に貢献できると考えています。

Q. 現在担当している仕事に限らず、今までで最も印象に残っている仕事を教えてください。

上記の免税制度業務の一環として、観光再始動事業にも採択されたショッピングツーリズムのオープニングイベントに参加しました。普段デスクワークが多い仕事ですが、私たちの仕事は民間事業者や地方公共団体、観光協会など様々な関係者とつながっています。ですので、このイベントはインバウンド観光の本格的な回復に向け、官民連携して取り組んでいくことをPRできたよききっかけだったと感じています。イベントの細かい調整は大変ですが、無事イベントが成功したときには良かったと思えます。

Q. ワークライフバランスを保つために心がけていることを教えてください。

仕事で行き詰まった時は、とりあえず寝て、美味しいものを食べて忘れるようにしています。休日は、好きなアーティストのライブに行ったり、旅行に行ってリフレッシュしています。

Q. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

国土交通省の仕事は私たちの身近な生活に関わる部分が多いので、大変なことも多いですがその分やりがいを感じることができる分野だと思います。また、観光からインフラ整備、まちづくりや防災など分野が広いので、様々な業務を経験でき、スケールの大きな仕事ができるチャンスも多くあると思います。ぜひ国土交通省でお待ちしております！

